

編集後記・・・

■本誌生みの親貞子さん没後5年目を迎えました。長女の串田久子氏に、7回も苦労して入来新能を主催された身内の立場で、寄稿して貰いました。当初能舞台は鹿児島県内にはなく、自分達で岡山まで車で見本を見に行き、能舞台から作って居られます。その積極性と勇氣に改めて感動を覚えます。■昨年の投稿者に加え、病気で暫く休筆中の百田氏が復帰されました。本誌を引っ張ってこられた桐野会長は、二度の入院にもかかわらず長編原稿を投稿されています。何とか肖りたいものです。■石の上にも3年と申しますが、冊子継続早くも5年、重朝庵主の長寿を祈念しております。(中西喜彦)

■貞子さんの後を引き継いでから、5回目の編集作業となり、書式・体裁もすっかり定着しました。そのため編集作業が随分効率良く行えるようになってきています。そして、今回はメールのやり取りだけで編集作業をすませました。便利になったものと改めて実感です。(下土橋渡)

■ご無沙汰をしているといなくなってしまう人が多くなってきました。東京なら北、アメリカなら西、ご自宅の方に向かって合掌と礼拝でお許し願っている

けれども、門にまで先立たれてしまうと、はて、どうやって弔うか、取り敢えず、入来に向かい手を合わせる。■台風で入来院家の茅葺き門が倒壊した。竹林の手入れに行かなきゃならない、思うだけで実行が伴わないでいたら、強い風に乗ってサヨナラ、勝手口からの出入り人でも落ち葉を取り除いたり馴染みだつたのに、自分だけアッサリ旅立ってしまったね、君は。■門も門だが当主の心配はどこに行っちゃったんだ、声が聞こえない気がしないでもないもの、大風くらいで吹き飛ばされる存在でもなさろう。門でヨカッタ、胸をなでおろしていないわけでもない、複雑な心持ちのまま、長い間、お疲れさまでしたねえ。(澁谷繁樹)

「炬ばたセイ談」 第11号

炬ばたセイ談会会長

桐野三郎

編集担当 中西喜彦・下土橋渡・澁谷繁樹

事務局 T 895-1402

薩摩川内市入来町浦之名130

入来院重朝方

TEL・FAX 0996-44-3586

印刷 新大同印刷株 (0996-30-1811)